

今年の我が家の旅は、総勢 18 名、近代化する上海と古代が残る運河沿いの蘇州を選びました。86 年洛陽、西安、敦煌から始まった旅は 27 年を超えました。なぜ中国と問われるならば…

- ①中国 4 千年（現在は 7 千年とガイドは説明）の歴史に直接触れられるから。
- ②近代化する大都会のすぐ裏側に私達が育った頃の戦前、戦後の時代の懐かしい風景が残っているから…。
- ③巨大な富裕層とワーキングプア、搾取格差社会の中で一つのチャイナドリーム社会を作っている。貧困と失敗の中からひるまず強い経営者、リーダーを中国は育てているから…

今の日本の経営者、リーダーは貧しさと戦ったことのない「ひ弱な人」となっております。このどん底の貧しさと戦ってたくましく発展する中国をもう一度、家族、子供、孫達に見せておきたいという思いもありました。

何年振りかで上海東方明珠タワーに上がって、1300 万人が住む怪物都市を眺めてみました。林立する高層ビルと煤煙に覆われてかつての青く広がった中国はもうそこにはありませんでした。

完成すれば高さ世界一ですと説明してくれた日本の森ビルは一段と高く、ガラス張りなのか夕陽の中でキラキラと光っていました。

輸出はすでに 80 兆円、輸入は 70 兆円、貿易黒字が 10 兆円、成長率 9.9%…日本の輸出はおよそ 55 兆円、輸入は 45 兆円ですから、如何に中国が巨大に成長しつつあるかが分かります。

でも！今から凡そ 200 年前の明の時代には中国の成長率は 30%、イギリス、オランダ、スペイン、フランスの西欧の強国と日本はたった 3~5% でしたから、もともと中国はそれだけの潜在能力を持った国であります。眠れる獅子がようやく目を覚ましたと言えます。

私達の旅は、上海を後に春秋時代の古都『蘇州』へ入りました。

運河 200、橋 163 の街は、小舟を雇い、運河沿いに『地上の極楽』と言われた蘇州の街を見上げると絵になる旅となりました。

絵を描いている福山淳吾さんは、この運河だけで 100 コマ以上シャッターを切ったと言われていました。ちょうど池波正太郎の「剣客商売」のシーンに秋山小兵衛を乗せたお春の舟が、大川端から隠居宅の鐘ヶ淵へとむかう風景…を思い浮かべるような旅でもありました。

今西欧、東京、名古屋でも「川ルネッサンス」が進められており、大阪道頓堀には川歩道がつけられました。川の文化を、観光にと目を向けております。

君津にも 2 つのすばらしい川があり 5 つの湖があります。

中国の屋台村、もともと中国は屋台村の元祖かも知れませんが、上海で新天地どおり屋台村があると聞いて覗いてきました。

日本と違って路地の中庭風の空き地に大型パラソルをいくつも張った西欧の路上レストラン風で、日本より軽便で明るい雰囲気屋台村でした。

中国の旅も 20 年も続くと種々覚えるものです。

今年はその経験を生かして買い物する時は必ず 3 人 1 組でまとめ買いして 50% を目標に値切ることに決めて、支払は私が一括して払い、清算の段階でさらに 10% のリベートを私へと払えと交渉しました。面白いことにこの作戦は見事大成功となり、皆ビックリ大笑いとなりました。意外とこの方法は中国人の商風だったかも知れせん…。